平成３０年９月１日発行

かまにし

第69号

発　行　地域力推進蒲田西地区委員会
編　集　地域情報紙編集委員会

わがまちの顔

大田区陸上競技協会　前理事長
平塚（ひらつか）　宜信（よしのぶ）　さん

平塚宜信さんの住まいは西蒲田三丁目の黄色と茶色の壁の洒落たたたずまいで、奥様と娘夫婦と孫2人の6人家族でお住まいと伺いました。おなづか小→蓮沼中→中央大学を経て大田区陸上競技協会前理事長として今日に至る。

中学校時代から陸上競技が好きで興味があり、走り幅跳びやリレーメンバーで活躍。大学卒業後、日本特殊鋼（現大同特殊鋼）に入社、人事課に配属され採用と教育が業務となった。

数年後、同社が陸上部を創設。監督を任され大田区の各種大会に参加するようになった。元来好きな分野なので選手育成に力を注ぎ上位入賞を重ね、やがて大田区を代表して東京都の大会に出場するようになった。チーム力の向上が認められ「大田区陸上競技協会」の役員を兼ねるようになる。その後、審判員の講習を受け、公認審判員の資格を取得。これを機会に更にチーム育成に力を入れ、上部機構の東京陸上競技協会の各種競技大会の審判及び運営にも携わるようになった。更には、新春恒例の「箱根駅伝」を始め東京都内のマラソン等の陸上競技の審判員としての精進と経験を積み重ね、日本陸連から検定員の任命を受け、競技場・長距離競走路の検定に全国に赴いたそうです。競技大会は大小色々あるが、公認記録が認められるには次の条件が必要との事。

一　公認競技場で出した記録

二　公認の競技器具の使用

三　公認審判員が携わった競技会

国内で公認を受けた競技場・長距離競走路は８００に及ぶとの事。大会に携わって一番の思い出は、東京で行われた世界陸上で、当時大阪に勤務していたが１週間休暇を取って運営に携わった事だそうです。

定年を終えた今でも年間60回を超える競技会の審判として東京中を飛び回っているというので、審判員手帳を見せて頂きました。昭和52年から40数年間で、何と7冊で１６００回に及ぶ記録が網羅されていた。競技別では東京箱根間駅伝、日本選手権、東京選手権、東京マラソン、女子マラソン、元旦競歩、ロードレース大会、等々数十に及び、役務では、総務員、用器具係、役員等、平成15年以降になると審判講習会講師、監察員、公式計測員、技術総務、大会総務、審判長等々が記録されている。

現在は、大田区陸上競技協会の審判員登録に所属しているメンバーと共に、ボランティア活動に徹したい考えのようです。

最近では、陸上一筋から地元にも目を向け、自治会活動にも力を発揮しており、今期から西蒲田二・三丁目自治会の副会長にも選任されました。今74歳。これからも地元大田区のみならず、東京都にとっても重要且つ貴重な存在である。

（取材　森・瀬川・伊藤委員）

ご存知ですか？
蒲田西地区にあったつり堀

昭和二十年代後半から、かまにし地区内につり堀がたくさんあったそうです。つり竿をかついで、自転車で走る男性の姿をよく見かけたそうです。

編集部では、総力をあげて古くから蒲田西地区にお住まいの多くの方々に、取材を続けてまいりました。

◎西蒲田一丁目　A

昭和二十年代、一丁目に女塚浴場があり、浴場の離れより先につり堀があり、手前に畑を作り、トマト・きゅうり・小麦・粟などを作るために、つり堀からの水を利用していた。百坪位のつり堀が、二箇所あり水は畑には充分だった。現在は、ガス会社の社宅になっている。

◎ジュニア公園　B

昭和二十年代から三十年代にかけて、現在の蓮沼交番の裏にあった。自分のつり竿を、つり堀に預けて、手ぶらでつり堀に出かけ、魚を釣ったら、点数をつけてくれ、集めた点数によって景品が貰えた。

◎安方商店街　C

昭和三十年代の頃は、映画館だった。映画館の建物をそのまま使用し、中をつり堀に改装したので、薄暗い中で魚を釣っていた。一年位で、つり堀をやめて市場になった。

◎御園神社の隣　D

昭和二十七・八年頃。蒲田にあったつり堀だが、「銀座つり堀」という名前で、商店街が運営していた。当時、商店街会長だった雨宮氏の「夜まで釣りを楽しんでもらいたい」との意向で、その頃は高価だった水銀灯を六個設置して、午後八時頃まで営業していた。生簀が二箇所あって賑わっていたが、二年位で営業をやめた。

その他かまにし地区にあったつり堀は次の通りです。

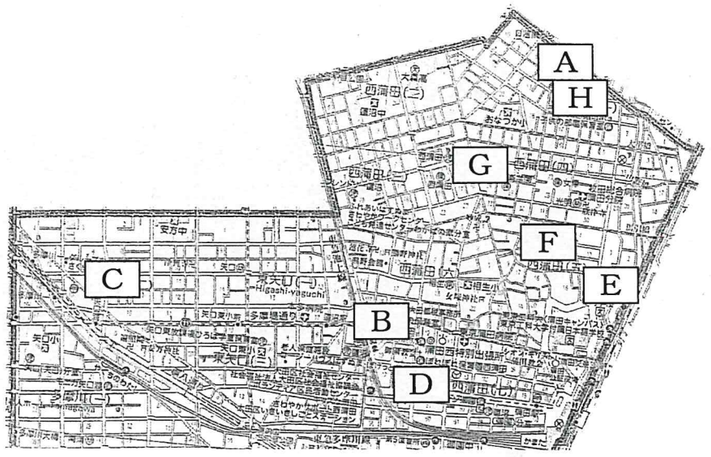
◎蒲田西口駅手前　E

◎現在の改正湯の前　F

◎西蒲田四丁目マート飯島斜前　G

◎西蒲田一丁目郵便局の裏　H

（取材　國廣・石渡・髙橋・伊藤委員）



「かまにし17」をお読みいただき、ありがとうございます。情報紙に対するご意見やご感想、または投稿などございましたら、お気軽に事務局までお寄せください。

事務局　蒲田西特別出張所
大田区西蒲田七－一－一
電話　３７３２・４７８５

蒲田西特別出張所管内

人口	男	32，346人
	女	29，982人
	計	62，328人
世帯		35，414世帯

平成30年8月1日現在

馬池洗（まいせん）散歩

― 馬込 ＋ 池上 ＋ 洗足池 の今 ―

地域情報紙編集者が集合

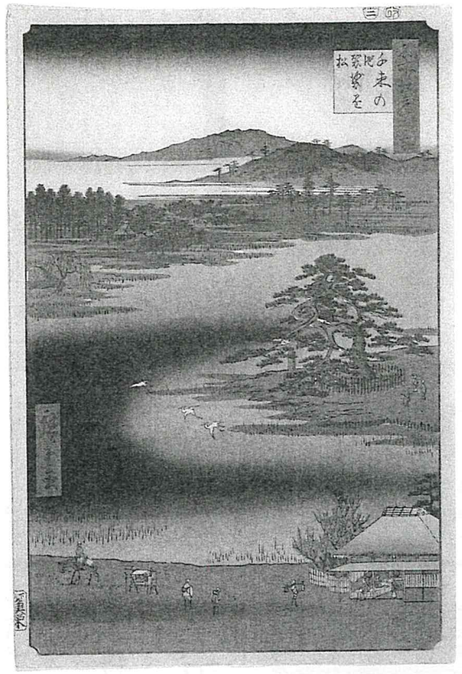
平成二〇年三月二四日、区内全ての地域情報紙の編集委員一～二名が馬池洗散歩に招待されました。かまにし一七からは山口・大良が参加しましたので、ご報告します。

午後一時に洗足池の洗足風致協会前に集合です。天気に恵まれ多くの編集委員が集まりました。主催者からのあいさつの後、三つのグループに分かれてガイドさんと散歩開始です。Aは歌川広重が安政三年に描いた千束の池の図で一六二年前の景色です。

見学当日の洗足池はBのとおりでした。浮世絵にある袈裟掛松は池の右側にあり、池の形も、少し変化があったようです。

洗足池にある史跡の数々

武蔵野台地の湧水を主な水源としてできた洗足池の優れた風景は浮世絵にも描かれ、日蓮は身延山から池上に向かう途中で休息し、勝海舟も池の周辺の景色を気に入り洗足軒という別荘を建てました。今は大森第六中学校の一部となっており、勝海舟墓所との間に清明文庫（C）があります。



A 歌川広重「名所江戸百景　千束の池袈裟掛松」

清明文庫

清明文庫は、日蓮宗系の精神修養団体である財団法人清明会が洗足軒を永久に保存し、その活用効果をあげるため、関連図書の収集および閲覧、付属講堂での講座開催を目的に建てたものです。

B洗足池には多くのボートが浮かび笑顔があふれていました

C現在の清明文庫正面（修復中）

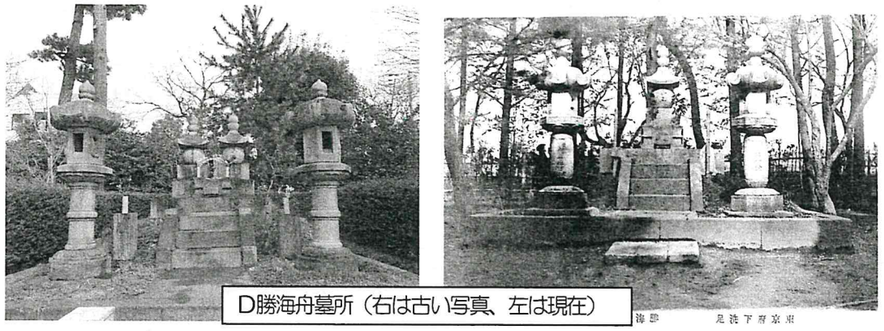
竣工は江戸開城六〇周年記念日の昭和三年四月一一日、八年には図書館活動を開始しますが、代表者の体調不良により昭和一〇年に図書類は寄贈者に返還されました。

建物は外観正面中央部のネオ・ゴシックスタイルの柱四本が特徴で、竣工時の意匠・仕様を各所に残しているため平成一二年に国の登録有形文化財となり、大田区の貴重な文化財建造物の一つとなっています。

大田区は平成二四年にこの敷地を購入し、建物所有者だった㈱学研ココファンホールディングスから寄贈を受け、清明文庫を保存活用して、海舟の足跡を現代に伝える展示施設にするため整備中です。

勝海舟墓所の不思議

清明文庫の近くに勝海舟の墓があり、Dの右は墓石が一人分、左は夫妻二人の墓が並んでいます。何があったのでしょうか？



D勝海舟墓所（右は古い写真、左は現在）

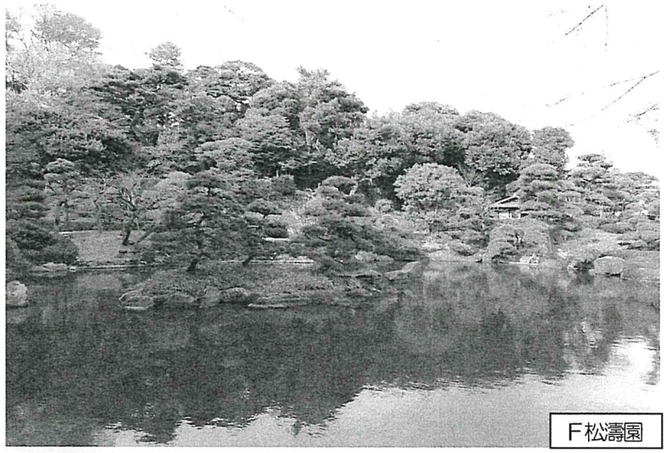
池上に行きました

次は洗足池駅から池上線に乗り池上駅で降ります。池上本門寺に向かう参道には、久寿餅屋さんが何軒かあり、中には三五〇年も前から続いているお店もあるとのことです。川崎大師の久寿餅も有名ですが、ガイドさんによると、どうもこちらが本家のようです。

Eは池上本門寺の近くにある理境院というお寺で、幕末に官軍の薩摩藩勢が江戸進撃の途上に本門寺に駐屯した際、参謀の西郷隆盛の宿営にあてられたと言います。

本門寺では、五重塔などを見た後に松濤園（F）に向かいます。

E池上本門寺の参道沿いにある理境院



F松濤園

松濤園にて

松濤園は池上本門寺本院奥庭で江戸初期に小堀遠州によって造園されたと伝えられる池泉回遊式の庭園です。幕末には西郷隆盛と勝海舟がこの庭のあずまやにて会見を行ったと伝承されています。松濤園は普段は非公開ですが、この日は特別に入れていただきました。

桜が満開でしたので記念写真を蒲田東地区の阿部さんに撮影していただきました。（G）

大田区郷土博物館へ

池上から馬込の郷土博物館まで歩ける距離かどうかと思っていましたが、児童公園で一休みしたりしながら、本日の最終地の「郷土博物館」に到着しました。

ここで、学芸員の築地さんから清明文庫を大田区が「（仮称）勝海舟記念館」として平成二一年に開館しようとしているという説明を受け、一階で展示中の勝海舟にちなむ品々の説明も受けました。

読者の皆様に大田区について、もっと知っていただきたいと強く思った一日でした。

注：AとD右は大田区立郷土資料館から借用（取材　大良・山口委員）

G第２グループ記念写真（松濤園の満開の桜の前で）